

大滝ダム貯水池斜面对策検討委員会

第2回委員会 議事要旨

日時：平成19年 2月10日(土) 13:00～15:00

場所：みやこめっせ(京都市勧業館内) 地下1階「大会議室」

出席者：

委員長	田村 武	(京都大学大学院 教授)
委員	千木良 雅弘	(京都大学防災研究所 教授)
"	角 哲也	(京都大学大学院 助教授)
"	吉松 弘行	(社団法人日本地すべり学会 理事)
"	平野 勇	(独立行政法人土木研究所 地質監)
"	安田 成夫	(国土技術政策総合研究所 水資源研究室長)
"	藤澤 和範	(独立行政法人土木研究所 上席研究員(地すべり))

議事：

大滝地区ならびに迫地区の貯水池斜面において、安全を確保するための地すべり対策候補案等について検討し、以下のとおり確認した。

設計条件の精査について

迫地区の追加ボーリング調査により、下部すべり面の形状が明確となった。

間隙水圧残留率については、現場透水試験結果で得た透水係数による浸透流解析の結果から5%とすることが妥当と判断した。

安全を確保する対策候補(案)について

大滝地区においては、押え盛土工と鋼管杭工を中心とした対策候補案3案が示されたが、いずれの案についても貯水池斜面の安全が確保されることを確認した。

迫地区においては、押え盛土工とアンカー工などを中心とした対策候補案3案が示されたが、いずれの案についても貯水池斜面の安全が確保されることを確認した。

なお、今後は、国がコスト縮減・工期短縮等の観点から検討を行い、採用案については後日の委員会において報告を受けることを確認した。

その他の意見

今後、ダムの貯水池運用を工夫した場合の貯水池斜面に対する影響についても検討すること。

今後、施工中及び施工後における地すべり挙動観測体制について検討すること。